

「がん難民」をつくらないために
標準治療^{プラス}

統合医療で がんに克つ



特集 **がん治療と代替医療**

がん治療と気功—気功は対がん戦略の中核を担う

帯津良一 帯津三敬病院名誉院長

自然治癒力を最大限に活かす鍼灸による治療

水嶋丈雄 水嶋クリニック院長

食事療法も代替療法の1つ—治療中・治療後の食事療法

櫻野善治 医療ジャーナリスト

厚労省研究班が示したがん代替医療との向き合い方と

『ガイドブック』の利用法

高山健治 フリーランスライター

特別
インタビュー

私のがん治療

〈親切を基本理念に患者さんが納得する治療と施設を提供

堂園メデイカルハウス 堂園晴彦院長に訊く

シリーズ

医療の現場から
文京クリニック

倉根修二院長に訊く

自家がんワクチン療法を中心にがん治療を展開
—プライマリ・ケアに徹しながら最先端のがん免疫療法を提供する



シリーズ
医療の現場から

第56回 文京クリニック

倉根修二院長に訊く

構成／希瀬本夕紀 医療ジャーナリスト

自家がんワクチン療法を中心に がん治療を展開

——プライマリ・ケアに徹しながら最先端の
がん免疫療法を提供する



倉根修二(くらね・しゅうじ)

1977年 日本医科大学卒業。日本医科大学第2内科にて研修後、同大学大学院(微生物免疫学)修了。日本医科大学臨床病理科にて、がんの化学療法・免疫療法の診療および研究に従事。米国ミシガン大学(腫瘍内科・腫瘍外科)留学。帰国後、日本医科大学第4内科にて呼吸器・感染症の診療に従事。日本医科大学第4内科講師。日本医科大学付属病院産業医。2003年11月より同大学非常勤講師。2003年12月、文京クリニックを開院し、内科(一般内科、呼吸器科、アレルギー科)および免疫関連疾患(免疫療法)の診療をスタートさせる。日本内科学会、日本呼吸器学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本感染症学会、日本バイオセラピー学会などに所属。

東京23区の中央北寄りに位置する文京区。その一角を占める千駄木は、谷中・根津と共に「谷根千」と称され、情緒溢れる「東京の下町」として親しまれています。加えて、山手線内側にありながら一昔前の街並みが残存していたり、夏目漱石や森鷗外など多くの文人が居を構えたりした土地としても知られています。

そんな千駄木の一隅に、今回、登場する文京クリニックはあります。同クリニックは、日本医科大学付属病院(以下「日医大」)の医師でもある倉根修二院長が「患者さんの健康とQOL(生活の質)の向上」をモットーに、内科(一般内科、呼吸器科、アレルギー科)および免疫関連疾患(免疫療法)の診療をスタートさせるために開院しました。

その倉根院長に、免疫療法に携わるようになった経緯・実践しているがん治療・丸山ワクチンなどについて訊きました。

自家がんワクチン療法を逸早く取り入れる

まず、呼吸器・感染症の専門でいらつしやる倉根先生が、免疫療法に携わるようになった経緯をお聞かせください。

倉根 元々、私はがんの免疫療法に興味を持っていました。1970年代後半から1980年代の前半にかけて、インターフェロン(生体から分泌されるサイトカイン)が細胞増殖を抑制することから「夢の抗がん剤



下町情緒溢れる千駄木の一隅にある文京クリニック



明るい雰囲気受付が迎え入れてくれる

になる」と騒がれた時期がありました。その頃、私はインターフェロンの基礎的な研究をしていて、このサイトカインでナチュラルキラー細胞を活性化させることに関心があつたのです。その後、がん治療を実践する医局へ移り、肺がんを中心とした化学療法の実践に従事する傍ら、がん免疫療法の研究を続けました。またこの間、ミシガン大学の腫瘍内科・腫瘍外科に留学し、外来、病棟回診で米国のがん治療を学ぶと共に、ミシガン大学で盛んに行われていた免疫遺伝子治療の研究に従事しました。

私が籍を置いていた日本の医局は、留学前には全体でがんに携わっていて、研究班としては大きく抗がん剤関連のグループと免疫療法グループがありましたが留学中に主任教授が変わり、医局の診療体制が、肺がんを含む呼吸器疾患と感染症へと変わりました。そのため帰国後は残念ながらがん免疫療法の研究を継続することは困難になり、感染症の診療に取り組むことになったのです。

2003年12月に、一般内科・呼吸器科・アレルギー科を標榜する文京クリニックを開業しましたが、何とかがんの免疫療法を再開できないものかと考えを巡らせました。そこで、私の父ががんで他界していることもあり、当時、国内で始まったばかりの自家がんワクチン療法を取り入れ、がん患者さんの治療を再開することにしました。その意味では、自家がんワクチン療法に取り組み続けている医療機関としては、当クリニックはいちばん古いということになるかと思えます。

——千駄木にクリニックをオープンしたのは、やはり日医大が近いということが大きな理由でしょうか？

倉根 そうです。現在、非常勤ですが日医大においてHIVの診療を行っています。また、自宅が文京区にあり、千駄木に近いというのもこの場所にクリニックを開院した理由の1つです。

——先程、お話に出た自家がんワクチン療法とはどのような治療法なのですか？

倉根 自家がんワクチン療法は、がんの特異的免疫療法の1つです。その機序は、手術で切除した患者さん自身のがん組織をワクチンとして利用することにより、患者さん自身の身体の中で、がん細胞を識別し攻撃するキラーT細胞（CTL）を誘導させ、がん細胞を殺そうというものです。

——がんにはそれぞれの個性があり、同じ人間から発生したがんであっても異なった顔つきをしています。そのように多様性のあるがん細胞を識別し、がんを攻撃するCTLを誘導することは、とても大変な作業が必要です。一般的には手術で切除した患者さんのがん細胞を生きたまま培養し、これを基に患者さんの血液から採ったリンパ球を培養してCTLを誘導しなければなりません。この方法では手術前にあらかじめがん細胞を培養する準備が必要となります。それに對し、自家がんワクチン療法は、手術で切除されてホルマリン漬けになった患者さん自身のがん組織はもちろん、パラフィンの中に固定されたがん組織でも使うことが可能

です。

多岐にわたる最先端のがん治療を展開

——文京クリニックの診療科目は保険診療と自費診療とに分けられると思うのですが、自費診療部門では自家がんワクチン療法以外にどのような治療法が行われているのでしょうか？

倉根 がん治療としては、丸山ワクチン、BRM療法、高濃度ビタミンC点滴療法、免疫細胞療法、RF温熱療法などが挙げられます。

——そのなかで、最初に丸山ワクチンについて教えてください。

倉根 元々、丸山ワクチンは、皮膚結核の治療薬として誕生しました。皮膚結核やハンセン病の治療として使用されるなかで、この2つの病気にがんの患者さんが少ないという共通点が見つかり、がんに対するワクチンの作用を調べる研究が始まりました。

このワクチンは、免疫の働きを調節することによって、間接的にがんの増殖・浸潤・転移を阻みます。つまり、リンパ球やマクロファージ、ナチュラルキラー細胞などを活性化させ、さまざまなサイトカインが誘導されることで、がんにとつての環境が悪化して自滅していくのです。加えて、丸山ワクチンにはコラーゲンの増殖作用もあります。ワクチンの注射によって、多量のコラーゲンががん細胞の周囲につくられ、がん

発酵古代米のチカラ



さらに低分子で
吸収力アップ!!

プロテクト食物繊維

SUPER

スーパーオリマックス

ORIMAX

オリザロース含有食品

メーカー希望小売価格

■30包入り ¥18,900(税込) (本体¥18,000)
■90包(30包×3箱)入り ¥50,400(税込) (本体¥48,000)



「スーパーオリマックス」は古代米の一種である紫黒米を発酵させた発酵古代米(特許 第3760139号)を主材料としています。アントシアニン、ギャバ(GABA)および米ぬかの食物繊維に由来する低分子米ぬかアラビノキシラン「オリザロース」が主な健康成分です。オリザロース含有食品「スーパーオリマックス」は元気で行動的な生活を目指す方にお勧めします。

～スーパーオリマックスが持つ健康成分～



お問い合わせ・資料請求は
(AM10:00～PM17:00土日祝除く) TEL.03-5290-3110

ORIGIN 株式会社 オリジン生化学研究所

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-3 ユニバース第一ビル2階

<http://www.origin-tokyo.jp>



シリーズ 医療の現場から

を封じ込めたり、がんの栄養補給路を遮断したりして、その増殖・転移を阻止するのです。

現在、丸山ワクチン是有償治験薬として承認されており、希望するがん患者さんはどなたでも使用することが出来ます。このワクチンには、副作用がほとんどないこと。抗がん剤に併用することによりその副作用が低減されること。自覚症状の改善が図れることその他、一部の患者さんでは、延命効果が見られる・がんの

増殖を抑えられるといった効果が認められます。また、患者さんの年齢や、体調、がんの部位・種類が問われることもありませぬ。

—— 続いて、BRM療法についてお聞かせください。

倉根 BRMとは、生体の反応を変化させる物質(生物反応修飾物質… Biological Response Modifier)の総称ですが、がんに対するBRM療法では、主に免疫機能を高める物質が使われます。当クリニックでは、抗

悪性腫瘍剤であるピシバニールやクレシチンなどを、自家がんワクチン治療後の患者さんの免疫機能維持のために使用します。また先程お話しした丸山ワクチンや、補剤と言われる漢方薬にもBRM作用があり、当クリニックに相談に見えるほとんどの患者さんに推奨しています。

—— その他の治療法についても教えてください。

倉根 高濃度ビタミンC点滴療法は、その名前のとおり、高濃度のビタミンCを点滴する治療法です。ビタミンCは、単独でも一定の濃度以上で選択的にがん細胞を破壊させると言われていますし、抗がん剤との併用も可能です。副作用のない統合医療・代替療法としての研究が進んでおり、私のクリニックでも、時に著効する患者さんが見受けられます。自家がんワクチンと併用した患者さんはまだいませんが、これらの併用効果も期待できると考えています。またワクチンとの併用という意味では、免疫細胞療法を実施し、効果が見られた患者さんも多く経験しています。当クリニックには自前の細胞培養施設はありませんので、東京女子医科大学系列のバイオセラクリニク(新宿区)と提携して実施しています。

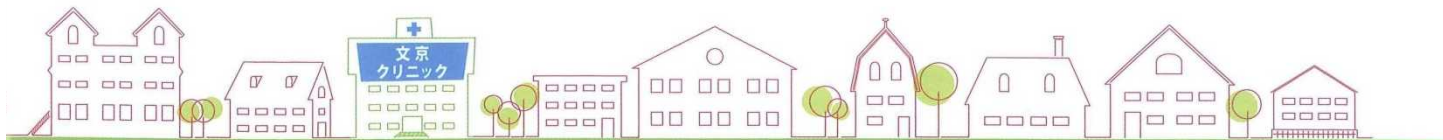
RF温熱療法は、「インディバ」を用いた温熱療法です。インディバとは、電気メスの発明者であるスペイソンの物理学博士ホセ・カルベッソ氏により開発された、電磁波エネルギーを点滴する治療法です。ビタミンCは、単独でも一定の濃度以上で選択的にがん細胞を破壊させると言われていますし、抗がん剤との併用も可能です。副作用のない統合医療・代替療法としての研究が進んでおり、私のクリニックでも、時に著効する患者さんが見受けられます。自家がんワクチンと併用した患者さんはまだいませんが、これらの併用効果も期待できると考えています。またワクチンとの併用という意味では、免疫細胞療法を実施し、効果が見られた患者さんも多く経験しています。当クリニックには自前の細胞培養施設はありませんので、東京女子医科大学系列のバイオセラクリニク(新宿区)と提携して実施しています。



処置室では、さまざまな治療が行われる



高周波温熱機器「インディバ」



ギーによる高周波温熱機器の総称です。当クリニックでは、高濃度ビタミンC点滴療法の効果をさらに高めるためにRF温熱療法を併用しています。

——保険診療部門では、主にどのような疾病の診療を行っているのでしょうか？

倉根 内科としては高血圧・高脂血症・糖尿病、呼吸器科としては気管支喘息・気管支炎・肺炎・肺気腫・睡眠無呼吸症候群、アレルギー科としてはアレルギー性鼻炎の患者さんが多いです。とくに、喘息は遠方の患者さんが増えてきています。

がん免疫療法には、化学療法・分子標的治療薬・放射線治療などのベストな組み合わせの探求が必要

——先生は「地域の人たちの健康とQOL（生活の質）の向上」をモットーに掲げていらっしゃいますが……。

倉根 それはどこの開業医も同じだと思うのですが、プライマリ・ケア（何でも相談に乗ってくれる身近な総合的医療）を実践するという事です。些細なことでも来院していただいた患者さんに対し、アドバイスをしたり、適切な医療を提供したりするのが開業医の本分だと捉えています。もちろん、こうした医療と、がんの治療は異なるものです。したがって、当クリニックは必ずしも、がん専門のクリニックというスタンスではあ



日進月歩の医療の情報収集も欠かさない

りません。しかしがん治療を片手間にやっているという意識はまったくありません。今でもがん関連の学会や研究会には積極的に参加して新しい情報を得ることを心がけていますし、私がこれまで培ってきたもの、勉強してきたものを患者さんに還元するというスタンスです。その意味では、自分の「居場所」を見付けたかな、とも感じています。

——文京クリニックの患者さん全体に占める、がん患者さんの比率はどのくらいなのですか？

倉根 全体の4分の1ほどです。がん種は多岐にわたっています。当クリニックはとくにがん外来を設けているわけではないので、ホームページや雑誌などを見たというがん患者さんやそのご家族から問い合わせがあり、その後治療に入っていくま

す。先程、お話しした丸山ワクチンは、現在、治療薬であり、日医大からしか手に入りません。その日医大と距離的に近いこともあり、当クリニックでの丸山ワクチンの注射を希望されるがん患者さんも少なくありません。

——その丸山ワクチンですが、先生はどのような手応えを感じていらっしゃいますか？

倉根 がん患者さんの何%に効果があるのかと問われれば、それは一概に腫瘍縮小効果のような物差しで測れるものではありません。これは他の免疫療法にも言えることですが、どれだけ腫瘍が縮小したのかではなく、どのくらい延命に寄与できたのか、という尺度で見っていくものだと思います。最近日医大のワクチン外来を手伝っていますが、患者さんから丸山ワクチンを始めて元気になった、抗がん剤の副作用が軽くなったという話をよく聞きます。また患者さんのなかには、5年・6年と使い続けているうちに治ってしまうケースもありました。丸山ワクチンは20アンプル（40日分）が90000円（税抜き）で、それに処置費などがかるだけです。単純に比較はできませんが、免疫細胞療法などと比較してもリーズナブルです。がん患者さんから丸山ワクチンについての相談を受けたときは、ご自宅の近くに丸山ワクチンを打ってくれる先生がいれば、使用を勧めています。

従来の抗がん剤は多少の副作用が

あっても腫瘍が小さくなれば薬として認可されました。しかし抗がん剤の投与を止めると、また大きくなってくる。再び抗がん剤の副作用によって患者さんは苦しむことになり、その結果の代償として僅かな延命を得ていたわけです。それに対し、免疫療法は劇的に腫瘍が小さくならなけれども、延命効果が期待できるわけです。化学療法と併用すると化学療法単独よりも生存期間の成績が優れているという臨床試験の結果も出ています。元々、免疫療法というものは、そういう類の治療だと私は思っていました。それが、いまや、一時的であつても腫瘍を小さくさせるような強力な免疫療法も出てくるようになりました。がんの免疫療法は確実に進歩しています。

——そのように進歩していく免疫療法には、今後、どのようなことが求められてくるとお考えでしょうか？

倉根 自家がんワクチンはキラーT細胞を誘導するのに非常に優れた手段なのですが、材料となる腫瘍の量で接種回数が限られてきてしまい、何クールも行うことができません。その意味で、1クールあるいは、2クールやって終わりというケースが少なくありません。

もちろん手術後の再発予防のために1クール実施するという患者さんもいますが、多くは、病気が進行した状態の患者さんです。できれば、数コース続けたいのですが、それだけのワクチンがつかないため断念

世界で認められる βグルカンサプリ

やっぱり
見逃せない!
きのこのパワー
マイタケ由来 1,6-1,3
特殊抽出 βグルカン



信頼と品質を追求—
中身で選ばれる「D-フラクション」

～日本限定発売のプレミアム商品～

グリフロン®プロ・D-フラクション EX

(液体タイプ) 30ml: 12,600円/60ml: 23,100円(税込)

D-フラクションって
なんですか?

どんな味?
飲みやすい?

…など、お気軽にお問合せ下さい

お問合せ・資料請求は…

0120-1996-77

受付/AM9:00～PM5:30(土・日・祝日休)

*通販でお届けいたします

- お客さまの個人情報は、カタログ送付、商品発送、その他のサービスを提供する目的以外には使用いたしません。
- お支払方法：代金引換またはカード払い
- お届け：お申込受付後、3～5日が目安です。
- 返品・交換：商品到着後8日以内、未開封に限りお引受け致します。お客さま都合による返品は送料をご負担下さい。



<http://www.d-fraction.co.jp>

株式会社サン・メディカ

〒108-0074 東京都港区高輪 2-16-45-1F

TEL(03)5447-5221 FAX(03)5447-5222

シリーズ 医療の現場から

することも少なくありません。少ないがん組織でも多くのワクチンを作製できる技術の開発が重要です。先程も少しお話ししましたが、私は自家がんワクチン療法に免疫細胞療法などを組み合わせることによって、一時的にせよ腫瘍の増殖をコントロールできる患者さんが多いという印象を持っています。この話は2



倉根院長を支えるスタッフの皆さん

012年11月に開催された「がんワクチン療法研究会」で発表しました。その演題のテーマは「自家がんワクチン療法施行症例を通じて見えてきたがん免疫療法の未来」です。この発表は、自家がんワクチン療法によって何らかの効果の認められた患者さんに関して、どの程度キラー細胞が誘導されたか、また免疫機能の指標であるナチュラルキラー細胞活性や、リンパ球のサイトカイン産生能の変化、併用療法について検討した結果をまとめたもので、こうした患者さんの多くは複数コースのワクチンを受けており、免疫機能の増強が認められることがわかりました。また、免疫細胞療法を併用または後治療として実施することで効果が持続する傾向が見られました。ですから今後の免疫療法の戦略としては、特異的免疫療法の代表である自家がんワクチンと、免疫細胞療法などの非特異的免疫療法をうまく

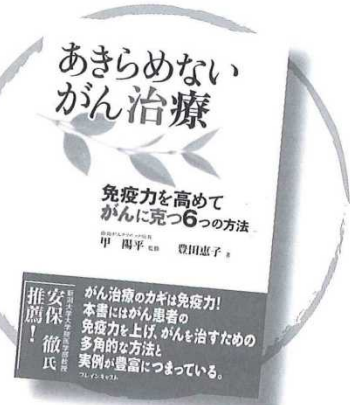
組み合わせることが重要と考えられます。繰り返しになりますが、こうした治療を継続して実施するために、いかに少量のがん組織からワクチンを作製するかといった改良も必要になると思いますし、1コース当たりの金額も下げていく努力が必要です。また、さらなる効果増強のためには、近年注目されているがん組織内に存在する免疫抑制性マクロファージやT細胞を排除する技術の確立が必要でしょう。今、お話しいただいた自家がんワクチン療法も含め、先生がお考えになるがん治療を行う上での信念とは、どのようなものでしょうか?

倉根 やはり、がん治療は総力戦です。決して簡単なものではありません。私はこの30年間、化学療法や、放射線治療、手術療法などの進歩を目の当たりにしてきました。ですから、こうした確立された治療法を含めて、個々の患者さんにどのようなアプローチが良いかを考えます。また統合医療を行うには、事前にその患者さんのそれまでのデータをきちんと頭に入れたり、効果を求める以上そのリスクもあることを患者さんに説明したりしたうえで治療に臨まなければならないと、最近、改めて思っています。最後に、現在、がんと闘っている患者さんにメッセージ・アドバイスをください。

●文京クリニック
東京都文京区千駄木1-23-3カーサ
リーナ千駄木2F
TEL:03-3823-6614
<http://www.kurane.org/>

BOOKS

新刊・既刊—今月の本棚



保険診療が がん難民をつくる

青木 晃 著

発行・幻冬舎メディアコン
サルディング 発売・幻冬舎
740円(税別)

現在のがん治療は、手術、放射線治療、抗がん剤治療といった3大療法に縛られ続けている、と著者は言う。なぜ患者は治療法を選択できないのか？ 保険診療だけに縛られたがん治療に「NO」を突き付け、患者の生活の質(QOL)を落とさない「共生型」の治療の必要性を訴えている。

では、保険診療の問題点はどこにあるのか？

- ・自由診療を並行して行う混合診療を禁止している。
- ・がんの進行状況によって治療法が自動的に決まってしまう。
- ・症状が進んだ患者は3大診療が受けられない。
- ・国の財政破綻により最先端治療を新たな保険対象にできない。
- ・……などの諸点を挙げている。

「がん難民を産む、救いのないシステム」「保険診療と保険外診療の間の高すぎる壁」「先端治療という選択肢」といった3章から成り、付録では著者の開業する横浜クリニックの「免疫療法の有効症例」が紹介されている。がん患者、傍らでサポートする家族の皆さんに一読していただきたい一冊だ。

あきらめないがん治療 免疫力を高めて がんを克つ6つの方法

豊田恵子 著・甲陽 監修
ブレインキャス

1200円(税別)

「がん治療のカギは免疫力！本書にはがん患者の免疫力を上げ、がんを治すための多角的な方法と実例が豊富に詰まっている。」

免疫療法の第一人者として知られる新潟大学大学院医学部教授の安保徹氏が本書に寄せた「推薦」の言葉である。著者は、医療・健康関係を中心とした書籍の執筆や編集に携わっている元出版社勤務の豊田恵子氏で、池袋がんクリニックの甲陽平院長が監修に当たっている。

がん治療において最強の装備は「免疫力を高める」ことであり、がんを克つためには「6つの方法」があるという。6つの方法とは、

- ①高活性化NK細胞療法、②樹状細胞療法、③自家がんワクチン療法、④自律神経免疫療法、⑤免疫サプリメント療法、⑥超高濃度ビタミンC点滴療法、のこと。

「ほとんどのがんに有効で副作用の心配が少ない」、「他の治療法との併用が可能」、「耐性が生じないから効果の継続が期待できる」、「QOLを向上させる」などといったことが、これら6つの療法に共通する特徴だという。

温熱機器「インディバ」の 美容・医療革命

山口祐司 著

発行・ギャップ・ジャパン
発売・GAP
1400円(税別)

著者は株式会社インディバ・ジャパンの会長・山口祐司氏である。温熱機器「インディバ」は、がん治療を専門とするクリニックの医師の間で知られており、同機器を設置している施設は少なくない。スペイン・インディバ社のカルペット博士が開発した。電気メス(高周波)と同レベルの周波数(中波)の機能を応用して完成させた高機能高周波温熱機器で、特許を取得している。

統合医療の分野において、副作用のない最新のがん治療法として注目されている高濃度ビタミンC点滴療法やウクライン療法、リンパ球療法などとの併用で補完的療法として同機器を導入している施設は多い。医療用機器としてだけでなく、美容およびスポーツ界でも活用されているという。

しかし、本書を上梓した本場の理由は「創始者・山口祐司の悔みなき人生」を語ること。《失敗しても失速せず、機会を失わず再び「やってみろ」を繰り返す。これが私の半生を「悔みなき人生」にしてくれたキーポイントではないだろうかと思う」と著者は言う。